



退任にあたって

温かいご支援ご協力 ありがとうございます

前町長 川代義夫

旧八雲町と旧熊石町が合併し、新たな町としてスタートした平成17年に、町民皆様の温かいご支援により新八雲町の初代町長として就任させていただきました。

支庁をまたいで、日本でただ一つ日本海と太平洋の二つの海を持つ町として新八雲町が誕生し、歴史や慣習も違う中で、町民の融和、融合を第



一義として町民皆様が一体となつて新町創造への努力から始まりました。

以来、この8年間、その重責を肝に命じ、町民皆様の幸せと町勢進展、そして両地域の均衡発展に微力ではありましたが、いつも変わらぬ町民皆様の温かいご支援と、議員各位の配慮に満ちたご指導でありました。

2期8年間の町政を振り返りますと、アメリカのサブプライム問題に端を発した世界的金融危機は、世界の経済を後退させ、日本経済にも深刻な影響を及ぼすこととなりました。また、国の三位一体改革、聖域なき構造改革などによって、地方自治体はかつてない危機的財政状況にあり、八雲町も早々に大胆な行財政改革・事務事業の見直しを進めたところでありました。

「行財政改革町政」であったと思えます。しかし、一部の町民からは合併してこんなはずではなかった、とのご意見も頂きましたが、間違いのない選択であったと確信しております。ここに町民皆様方のご理解に改めて感謝を申し上げる次第であります。

行政と町民の協働のまちづくりとして、町民による「自治基本条例」制定や、何を優先すべきかを考える「行政評価システムの導入」、八雲町の漁業を守らねばと地域バイオマス利活用施設を建設したこと、民設民営による「熊石ひらたない荘」を熊石地域の観光の核としてスタートを切らせていただいたこと、交通の要衝として北海道縦貫自動車道八雲インターチェンジが平成18年11月18日、落部インターチェンジが平成21年10月10日に開通し、更に、平成18年6月24日には道立広域公園噴火湾パノラマパークがオープンし、今では年間54万人の来園者で八雲町を代表する交流施設となりました。また、平成22年暮れには国の合同庁舎が完成するなど、道南北部の中心都市八雲町として確実に歩んで参りました。

大型施設事業といたしましては、防災拠点施設としての八雲消防庁舎の改築や、学校耐震化整備事業として各学校の整備、特に八雲町の次代を担う宝である子どもたちが、安心して勉学に励んで頂くため八雲小学校の全面改築も完成をみることで、本年2学期から新しい校舎で、勉強に励んでいる子どもたちの元気な姿を目の前にし、うれしく思っております。

八雲総合病院については、精神科病棟の改築、また、本館棟を全面改築することとなり、町民皆様が一番求めている安心して生活していくための総合病院の整備に目処が生まれました。そして、熊石地区のパークゴルフ場建設や生涯学習施設を兼ね備えた福祉センターの建設にも目処が生まれました。更に、2015年北海道新幹線新函館（仮称）開業を見据えた、交流人口の拡大による新しいまちづくりの核として、情報交流物産館「丘の駅」も12月完成の運びとなり、農林水産業および製造から販売に至る各業種間の連携によって、躍進するこれからの八雲町の姿を描く事が出来る段階になったと思っております。

任期中の出来事として何と

言っても忘れる事の出来ない事は、平成23年3月11日発生した東日本大震災による、ホタテ漁業施設の被災であります。八雲町の漁業はこれで終わりかと思わされる大打撃でありました。幸いホタテ漁業の皆さんのご努力と、町民皆様の温かいご支援により見事に復興させることができました。

ともあれ、この8年間、いろいろな事業に取り組みことができましたのも、皆様方のご支援、ご協力によるものと深く感謝しております。

最後に、八雲町の未来永劫の発展と町民皆様のご健勝をご祈念申し上げます、退任のご挨拶いたします。



退任式を終え、職員の手拍子に送られながら役場を後にしました。